



平成 29 年 9 月 12 日

報道各位

日本最大級のアワード
「2017 57th ACC TOKYO CREATIVITY AWARDS」
クリエイティブイノベーション部門 入賞作品 20 作品が決定！
—初代 総務大臣賞／ACC グランプリは「COGY Wheelchair」—

一般社団法人 全日本シーエム放送連盟（略称：ACC、東京都港区、理事長：高田 坦史）は、9 月 11 日（月）、「2017 57th ACC TOKYO CREATIVITY AWARDS」に今年創設されたクリエイティブイノベーション部門の最終公開プレゼンテーション審査会（以下、最終審査会）を、ヤフー株式会社のオープンコラボレーションスペース「LODGE」にて開催し、総務大臣賞／ACC グランプリほか各賞を決定しました。

本部門は、2016 年 1 月 1 日～2017 年 6 月 30 日の期間に上市または 社会実装された「プロダクト＆サービス」および、同期間に生み出された「プロトタイプ」を対象とし、「ビッグ・アイデア×テクノロジー」を審査基準としています。部門創立初年度の今年は、6 月 1 日（木）～7 月 6 日（木）にかけて作品を募集し 109 本の応募がありました。

最終審査会では、2 次審査を通過した 5 チームによるプレゼンテーションと、審査委員による質疑応答での審査を実施。会場に集まった報道関係者、一般来場者など約 80 名が熱心に耳を傾ける中、各チームがそれぞれ用意した映像や、実機を用いたデモンストレーションを交えての作品説明および、審査委員との活発な質疑応答が繰り広げられました。

その結果、総務大臣賞／ACC グランプリには「COGY Wheelchair」、ACC ゴールドに「服づくり 4.0『WE ARE』」、ACC シルバーに「toio」、ACC ブロンズに「MetaLimbs」と「ELI」がそれぞれ選出され、表彰式にて各賞の授与が行われました。

なお、ファイナリストを含む、全 20 作品は下記の通りです。

■クリエイティブイノベーション部門 入賞作品一覧

http://www.acc-awards.com/festival/2017fes_result/ci.html

本部門の審査は、東京大学 教授でソニーコンピュータサイエンス研究所 副所長の暦本純一 審査委員長をはじめ、タレント／クリエイターの池澤あやか氏、ヤフー株式会社 CSO（チーフストラテジーオフィサー）安宅和人氏など、総勢 12 名からなる多彩な顔ぶれの審査委員陣が務めました。

■審査委員紹介：<http://www.acc-awards.com/juries/ci/>

また、フィルム部門、ラジオ CM 部門、マーケティング・エフェクティブネス部門、インタラクティブ部門、メディアクリエイティブ部門（2017 年度新設）の入賞作品は、9 月 26 日（火）の 18 時に、ACC TOKYO CREATIVITY AWARDS 特設サイトにて発表予定です。



■ACC TOKYO CREATIVITY AWARDS 特設サイト

http://www.acc-awards.com/festival/2017fes_result/

今後も、ACC TOKYO CREATIVITY AWARDS では、より多くの秀逸な作品を顕彰することで、さまざまな企業やクリエイターの日頃の取り組みに光を当てると共に、更なる日本のクリエイティビティの発展に貢献すべく努めてまいります。

本件に関するお問い合わせ

〒105-0003 東京都港区西新橋 2-4-2 西新橋安田ユニオンビル 6F

TEL : 03-3500-3261 FAX : 03-3500-3263 URL : www.acc-cm.or.jp

一般社団法人 全日本シーエム放送連盟 担当：平川美穂



「2017 57th ACC TOKYO CREATIVITY AWARDS」

クリエイティブイノベーション部門

入賞作品一覧

【総務大臣賞／ACC グランプリ】

作品番号 : CI171914

タイトル : COGY Wheelchair

カテゴリー: プロダクト & サービス

応募団体 : TESS／東北大学／M2 デザイン／TBWA\HAKUHODO

【ACC ゴールド】

作品番号 : CI172287

タイトル : 服づくり 4.0 「WE ARE」

カテゴリー: プロダクト & サービス

応募団体 : シタテル

【ACC シルバー】

作品番号 : CI172641

タイトル : toio

カテゴリー: プロダクト & サービス

応募団体 : ソニー

【ACC ブロンズ】

作品番号 : CI172344

タイトル : MetaLimbs

カテゴリー: プロトタイプ

応募団体 : 慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科／東京大学 先端科学技術研究センター

作品番号 : CI172564

タイトル : ELI

カテゴリー: プロトタイプ

応募団体 : 博報堂／ワン・トゥー・テン・ホールディングス／博報堂プロダクツ／AOI Pro.



【ACC ファイナリスト】 ※掲載は作品番号順

作品番号 : CI171279

タイトル : ゆるスポーツ 「スポーツ弱者を、世界からなくす。」

カテゴリー : プロダクト & サービス

応募団体 : 世界ゆるスポーツ協会 / 電通 / 太陽企画

作品番号 : CI171396

タイトル : エクストリームコミュニケーションギア BONX Grip

カテゴリー : プロダクト & サービス

応募団体 : BONX

作品番号 : CI171613

タイトル : MOTION SONIC PROJECT カラダの動きから音をつくり

「身体表現を音で拡張」する、直観的なサウンドデザイン・体験の創造

カテゴリー : プロトタイプ

応募団体 : 電通 / ソニー / ティー・ワイ・オー TYO drive / ティー・ワイ・オー モンスター

作品番号 : CI171979

タイトル : 月額定額クルマ乗り換え放題サービス『NOREL』

カテゴリー : プロダクト & サービス

応募団体 : IDOM

作品番号 : CI172055

タイトル : Electronics Meets Crafts: GO ON × Panasonic Design

カテゴリー : プロトタイプ

応募団体 : 電通 関西支社 / パナソニック / GO ON

作品番号 : CI172186

タイトル : マイクロコンピューター 豊島屋モデル

カテゴリー : プロダクト & サービス

応募団体 : 電通 / カブク

作品番号 : CI172568

タイトル : Pechat

カテゴリー : プロダクト & サービス

応募団体 : 博報堂 / 博報堂アイ・スタジオ / 博報堂プロダクツ / 東北新社

作品番号 : CI172574

タイトル : Synesthesia Suit

カテゴリー : プロダクト & サービス

応募団体 : Enhance Games / ライゾマティクス / 慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科



作品番号 : CI172605
タイトル : LINE で宅急便～会話 AI・Spontena によるトークインタラクティブサービスの実現
カテゴリー: プロダクト&サービス
応募団体 : ヤマト運輸／博報堂／博報堂 D Y メディアパートナーズ／Spontena／
デジタル・アドバタイジング・コンソーシアム

作品番号 : CI172664
タイトル : INTERACTIVE LiVE CM
カテゴリー: プロダクト&サービス
応募団体 : キリンビール／電通／日本テレビ放送網／日テレアックスオン／HAROiD

作品番号 : CI172685
タイトル : INORI - PRAYER -
カテゴリー: プロダクト&サービス
応募団体 : 太陽企画／WOW

作品番号 : CI172709
タイトル : 浮遊球体ドローンディスプレイ
カテゴリー: プロトタイプ
応募団体 : NTT ドコモ

作品番号 : CI172747
タイトル : VR Real Data Baseball
カテゴリー: プロトタイプ
応募団体 : バスキュール

作品番号 : CI172792
タイトル : Smile Lock Outlet
カテゴリー: プロダクト&サービス
応募団体 : 電通／電通ライブ／電通国際情報サービス／Jigowatts／HYT-Design／
Omnibus Japan

作品番号 : CI172810
タイトル : DNA GLASS
カテゴリー: プロトタイプ
応募団体 : サントリーホールディングス／サン・アド／電通／マウント／
小宮山洋デザイン事務所／電通テック／電通クリエイティブX

以上 20 作品が、クリエイティブイノベーション部門の入賞作品となります。

ACC クリエイティブイノベーション部門
審査委員長講評および、審査委員紹介

■審査委員長

暦本 純一（東京大学 教授／ソニーコンピュータサイエンス研究所 副所長）



【最終審査会 審査委員長 講評】

ACC クリエイティブイノベーション部門は今年初めて開設された賞で、今回受賞された作品が今後のこの部門を形作ると言って過言ではありません。これまでイノベティブの賞はいろいろありましたが、このACC 賞はイノベティブであり、現実の課題に取り組み、解決しているものはもちろん、未来を創る可能性のある研究段階のものもきちんと認めようという方針で募集いたしました。初年度から予想を越えた多数の応募をいただきました。優れた提案でありながら、この会場に来られなかった作品もたくさんありました。その中で最終審査会まで残られた方々は本当におめでとうございます。

皆様それぞれの技術や作品、商品にはそれぞれとても魅力があり、個性的で、一つひとつが独立の賞というような、優劣をつけるのがとても難しい審査でした。今回、形作られたこの賞を目指して、来年応募してくる方もいると思います。これからも、クリエイティブイノベーションの世界を広げ、この賞を盛り立てていただけますようお願いいたします。

■審査委員

安宅 和人（ヤフー／CSO（チーフストラテジーオフィサー））

池澤 あやか（タレント／クリエイター）

稲田 雅彦（カブク／代表取締役 CEO）

井上 裕太（\QUANTUM／Startup Studio 事業責任者）

佐々木 紀彦（ニュースピックス／編集長、取締役）

佐々木 康晴（電通／第4CR プランニング局長、デジタル・クリエイティブ・センター長、
エグゼクティブ・クリエイティブ・ディレクター）

鈴木 雅穂（トヨタ自動車／未来プロジェクト室 室長）

野添 剛士（SIX／クリエイティブディレクター、代表取締役）

深田 昌則（パナソニック／アプライアンス社 Game Changer Catapult 代表）

朴 正義（バスキュール／代表取締役、クリエイティブディレクター）

森岡 東洋志（ワン・トゥー・テン・ドライブ／CTO、テクニカルディレクター）

以上



【ACC TOKYO CREATIVITY AWARDS とは】

「ACC TOKYO CREATIVITY AWARDS」は、テレビ、ラジオ CM の質的向上を目的に、1961 年より開催されてきた広告賞「ACC CM FESTIVAL」を前身とし、2017 年よりその枠を大きく広げ、あらゆる領域におけるクリエイティブを対象としたアワードにリニューアルしました。

2010 年にマーケティング・エフェクティブネス（ME）部門、2014 年にインタラクティブ部門、2017 年に、メディアクリエイティブ部門とクリエイティブイノベーション部門を創設。名実ともに、日本最大級のアワードとして広く認知されており、総務大臣賞/ACC グランプリは、クリエイティブ業界で活躍する関係者の大きな目標となっています。

【ACC とは】

一般社団法人 全日本シーエム放送連盟（ACC）は、よい CM の制作と放送の実現に寄与することを目的として、1960 年に CM 合同研究会として設立。2013 年に一般社団法人へと移行しました。

ACC は、広告主・広告会社・制作会社・放送会社の 4 業種のメンバーを中心に構成され、業種の枠を超え、グローバルな視点から日本のクリエイティビティの発展に貢献すべく活動しています。